

産後ケア

新たに通所型の実施を

ニーズ等を踏まえ研究



吉川 まゆみ 議員

問 令和元年度から開始した産後ケア事業の実施状況は。

保健センター所長 この事業は、出産後1年までの母子に対して、心身のケアや育児のサポートを行い、産後も安心して子育てができる支援体制を確保する取組みである。現在、短期入所型と居宅訪問型を実施している。3年度の利用は、短期入所型が5人で合計9日。居宅訪問型は5人で合計



ママ こんにちは（生まれて2日目のぼく）

25回であった。

問 利用者の声は。

保健センター所長 「赤ちゃんの世話がうまくできなくて悩んでいたが、助産師さんに教えてもらってとても良かった」などの声が寄せられている。

問 もう一つの取組みとして、産婦が助産師等がいる施設に向く通所型がある。家を出て環境を変えることで心も体もリフレッシュできる。実施への考えは。

保健センター所長 今後ニーズ等を踏まえる中で研究していく。

公共施設のトイレ

問 膀胱がんなどでその後必要とする尿取りパッドを捨てるごみ箱を、男子用トイレに設置できないか。

町長 必要性の高い施設から早期に設置していく。

食料自給率UPの施策を

新たな対応を検討する

農業振興



朝倉 国勝 議員

問 農家の農業離れが顕著で、食料自給率は目標値47%に対し、エネルギー換算値では37%と大きくかけ離れている。2月にはロシアがウクライナへ侵略を開始し、民主主義の根底を覆す暴挙が発生した。最大限の非難

と抗議を行うとともに、早期にこの侵略が終結する事を切望する。この侵略により、世界の政治経済は二極化し、エネルギー・食料・肥料等の分断がおこり、各国が食料危機の発生を危惧し、食料安保について真剣に議論や対策を始めている。我が坂城町においても、この国際情勢を受けて農業施策の見直しによる新たな展開が必要と考え、6項目の提案を行う。

① 儲かる農業の構築② ICT技術を活用した生産と抗議を行うとともに、早期にこの侵略が終結する事を切望する。この侵略により、世界の政治経済は二極化し、エネルギー・食料・肥料等の分断がおこり、各国が食料危機の発生を危惧し、食料安保について真剣に議論や対策を始めている。我が坂城町においても、この国際情勢を受けて農業施策の見直しによる新たな展開が必要と考え、6項目の提案を行う。



新しい転作が進む（さつまいも）